

## 見性院住職からの一言(先住忌の日)

この度、責任役員、相談役会議からの提案、議決を経て当院僧侶割布施改正を提示させていただきます。寺院を取り巻く環境は日増しに厳しさを増してきております。まさに寺院・僧侶戦国時代へと突入していく気配を感じております。当院では喫緊では第一事務所増改築、中期的には本堂屋根の大改修、長期的には第二本堂兼研修会館新築計画を計画しております。そのための基金(特別会計)の創設を検討しています。僧侶の報酬については特別待遇の扱いをしてきましたがこの機会に見直しをしていく所存です。

そもそも寺院や僧侶へのお布施は高額すぎたと思います。時給に換算した場合は特別職です。これに耐えられる僧侶がどのくらいおられるのでしょうか。僧侶はお布施に対してもっと謙虚になるべきです。そこまでの高德(高潔)さ、教養、人格、品性を備えているのでしょうか。葬儀社や人材派遣会社への手数料は至極当然です。なぜなら単なる飾り程度の僧侶ばかりだからです。葬式仏教も先祖供養も仏教の教義にはありません。インチキが出鱈目(デタラメ)をやってきただけのことです。これからは寺院も僧侶も選ばれる時代です。一代限りの付き合いになります。葬儀もお墓も仏壇・位牌も住宅も。一回限りの依頼だと思ってお勤めするのが妥当です。これからの、いや今の人たちはその場限りの間に合わせて依頼してきているにすぎません。ですから困わないことです。勧誘は禁物です。こちらは無心で坦々と飄々とお勤めをして何もなかったかのように颯爽と風と共に去ってゆけばよいのです。執着は無用です。縁あれば来たり、縁なければ去りぬの心境で生きていくことです。

特にこれまでネット仲介業者からのお勤めについては当院への手数料(純利益)1割では赤字の計上となり事務処理量は膨大となっております。僧侶の報酬(給料)が寺務職員(正社員)の2倍を超えない範疇におさめておく必要性も感じております。

私ごとで恐縮ではありますが私の場合は15歳で出家得度をして15歳から大雄山最乗寺にて夏休み春休みは修行に明け暮れてました。以来、20年間、大学での10年に及ぶ学究生活、永平寺での本山修行、海外留学を経て35歳で漸く一人前の僧侶として迎え入れてもらいました。たとえば医師になるには最低でも10年の期間を要します。浪人やインターンを含めると。特にインターン時代は無休で、無給の人も多くいると聞きます。ですから僧侶も資格を取得する前に修行期間後には一年間は住み込みで暁天坐禅、朝課から行い無報酬で報恩行に明け暮れる日々も必要かと思えます。

因みに某大手葬儀社の経営陣の一人でもある僧侶は大本山での修行のち師寮寺にて一年間、住み込みで朝のおつとめから食事の世話、運転手まで師僧に仕えたと聞いております。

私がこれまで見てきたお坊さんの9割近くは報酬目的の出家でした。志のある人は一握りです。ですから寺院消滅、僧侶失業、宗派分裂、大いに歓迎です。私の信条としては僧侶の修行生活は最低でも10年と言っております。婿入りした僧侶は最低でも10年は義父母に口答えせずに仕えろと言われてます。すべての僧侶に対して私はこの期間中(コロナ禍の中)転職を考えろと言いたい。

そして当院では職員は全員が一年契約(更新制)、業務提携寺院等への移動もありと申し上げます。優秀な人材を採用、獲得できれば戦力外通告は常にあります。プロスポーツ選手のつもりで日々、活動していただければ幸いです。以上、何卒宜しくお願い申し上げます。

正法眼蔵「菩提薩埵四摂法」中

その布施といふは、不貪(フトン)なり。不貪といふは、むさぼらざるなり。むさぼらずといふは、よのなかにいふへつらはざるなり。

たとひ四洲(シシュウ)を統領すれども、正道(シヨウドウ)の教化(キョウケ)をほどこすには、かならず不貪なるのみなり。

たとへば、すつるたからをしらぬ人にほどこさんがごとし。

遠山の華を如来に供(クウ)じ、前生(ゼンシヨウ)のたからを衆生にほどこさん、法におきても物におきても、面々に布施に相応する功德を本具せり。

我物(ガモツ)にあらざれども、布施をさへざる道理あり。そのもののかろきをきはらず、その功の実なるべきなり。

(私訳)

この布施というは不貪(ふとん)のことである。不貪というのはいくらも食わないことである。食わないとは、世間の人たちにこびを売らないことである。たとえ世界を統治できたとしても人々に人間として正しい道を教えることである。そして自らは無欲であることである。

遠き山の草花を仏様にお供えし、前世からの因縁の財宝を世の人々に与えていくこと。教え(知恵)であっても物品であってもその施しの功德というものは元々が具わっているものなのである。自分の施す物がないからと言ってお布施ができないという理由はないのである。その施す物が少ないとかは関係ないのである。その布施のあり方が真実であることが重要なのである。

当文書は当院内部文書のもので加筆修正して転載させていただきましたことをご承知おきください。

合掌

関係各位

令和3年3月5日 先代命日  
当院住職